

平成 30 年 10 月 25 日

経済学部学生が日本旅行と連携し マーケティング視点で「由布院・別府」エリアの旅行商品を造成

◆発表のポイント

- ・ゼミでマーケティングを学ぶ経済学部生が、日本旅行と連携して「由布院・別府」エリアの旅行商品を造成し、商品化されました。
- ・学生独自に実施した調査に基づき、顧客特性の観点から当地の観光の魅力や過ごし方を訴求しました。
- ・潜在的ニーズの掘り起こしを通じて、熊本地震からの復興を目指す当地の観光活性化を企図しています。

マーケティングを学ぶ岡山大学経済学部日高優一郎准教授のゼミ現4年生が、株式会社日本旅行と連携して「由布院・別府」エリアの新たな旅行商品「赤い風船 おんせん県おおいた」を造成しました。本商品は9月6日に同社より発売されました。

本商品のパンフレットには、学生が自ら実施したフィールドワークや顧客調査の結果に基づき、ターゲットの顧客特性の視点から由布院・別府それぞれのエリアの観光の魅力や過ごし方を訴求しています。地域観光の潜在的な可能性を顧客特性の観点から検討した点が特徴的で、当地の観光に対する潜在的ニーズの掘り起こしを通じて、2016年の熊本地震からのいち早い復興を目指す当地の、観光活性化への貢献を企図しています。

◆ゼミ生（代表：大野裕美子）からひとこと

商品が完成して、安堵感と同時に喜びが込み上げています！調査にご協力くださった大分の方々、先輩、そして貴重な機会を作ってくくださった日本旅行の方々と日高先生に感謝します。由布院も別府も温泉だけではない魅力がたっぷりです。お客様が、私たちが作り上げたものをきっかけにして大分の観光を楽しんでくれたら嬉しいです！



日高ゼミ4年生

<概要>

マーケティングを専門とする岡山大学経済学部日高優一郎准教授のゼミ4年生が、株式会社日本旅行と連携して「由布院・別府」エリアの新たな旅行商品「赤い風船 おんせん県おおいた」を造成し、9月6日に同社より発売されました。



PRESS RELEASE

<商品について～エリアごとの「魅力や過ごし方」提案内容～>

・由布院エリア —『湯ったり女子旅 in 由布院 心ゆくまで語りつくそう…』—

卒業旅行に行く女子大生、学生時代の友人と久しぶりにゆったりとした旅をしたいと考える女性をターゲットに設定。卒業旅行や長期休暇の旅行といえば海外旅行やテーマパークなどがイメージされがちですが、顧客調査の結果から、「のんびりとした」「食べ歩き」や「他人と被らない」「モノづくり体験」を好み「旅館での時間」を重視する「なごみ女子」の存在を発見し、友人と旅先で「深く語る」ことの潜在的ニーズを見出しました。「語る」ことを訴求のメインに据えることで、「フローラルビレッジ」や「湯の坪街道」、「金鱗湖」など、古き良き時代を彷彿とさせるのどかな雰囲気をもつ由布院の隠れた魅力を顧客に訴求しています（詳細は別紙パンフレットを参照）。

・別府エリア —『さよならストレス！ おいでよ別府！』—

20～30代の働く未婚女性をターゲットに設定。別府は知名度の高い観光資源豊富な観光地ですが、顧客から見た場合、どのように周遊すれば自分にピッタリな旅行になるのかが分かりにくいという課題があることを発見。逆にこの点に別府観光の潜在的な可能性を見出し、顧客調査の結果に基づいて、ターゲット顧客の「旅先での好きな過ごし方」が「アウトドア」・「インスタ」・「おしゃべり好き」・「のんびり」の4つのタイプに分かれること、これらが日頃抱えているストレスの解消と強く関連していることに注目し、すべてのタイプに満足を提供できる「地獄めぐり」や「天然泥パック」に加え、それぞれのタイプに適した当地の観光の過ごし方を提案しています（詳細は別紙パンフレットを参照）。

<企画の背景・経緯>

本企画（由布院・別府エリアの観光の魅力や過ごし方の提案）は、学生がゼミでマーケティングを学ぶ一環で、約1年かけて作成したものです。昨年4月に、日本旅行から「20～30代顧客をターゲットとした商品の企画」という調査テーマをいただき、学生がフィールドワークや顧客に対するアンケート調査を実施。それらの調査の分析結果を基にプランを練り、今年2月、日本旅行本社で企画発表会を行い、企画が採用されたものです。採用決定後は、ゼミ生と日本旅行の商品担当が打ち合わせを行いながら、具体的な施策の検討を進めてきました。

<提案に至るまでのゼミ活動>

2つのプロセスで実施しました。

①2017年4～8月：二次資料の探索・現地でのフィールドワークや顧客へのインタビュー調査を実施し、当該エリアの観光の現状や課題の洗い出し、ターゲットの顧客特性に注目しながら商品コンセプトに関する仮説導出を行いました。

②2017年9月～2018年1月：仮説に基づいて質問項目や分析方法を検討した上でアンケート調査を実施し、統計的に分析して仮説を検証。結果に基づいて具体的な提案内容の検討を進めてきました。

※なお、本件は株式会社日本旅行からも本リリースと同時にプレスリリースされます。



<お問い合わせ>
岡山大学大学院社会文化科学研究科（経済学部）
准教授 日高 優一郎
（電話番号）086-251-7549



岡山大学は、国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」を支援しています。